

令和4年度 弥彦村生涯学習意識調査まとめ

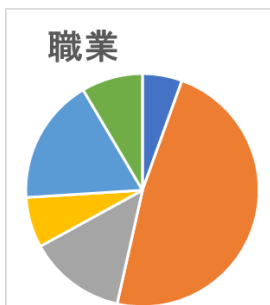
弥彦村公民館では、12月1日～1月20日の期間、無作為に抽出した村内在住の方に、弥彦村の生涯学習に関する意識調査を実施しました。調査結果がまとまりましたので公表いたします。

お寄せいただいたご意見については、今後の参考とさせていただきます。御協力いただきまして、ありがとうございました。

<回答者について>

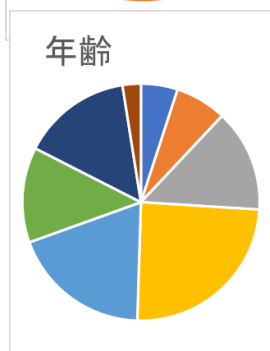
■ 性別 1. 男性(90) 2. 女性(109) 無回答(1)

■ 職業 1. 学生(11)
2. 会社員・公務員(96)
3. パート・アルバイト(27)
4. 自営業(14)
5. 無職(35)
無回答(17)
※()内は人数



■ 学生
■ 会社員・公務員
■ パート・アルバイト
■ 自営業
■ 無職
■ 無回答

■ 年齢 1. 10歳代(10)
2. 20歳代(14)
3. 30歳代(28)
4. 40歳代(49)
5. 50歳代(38)
6. 60歳代(26)
7. 70歳以上(30)
無回答(5)
※()内は人数



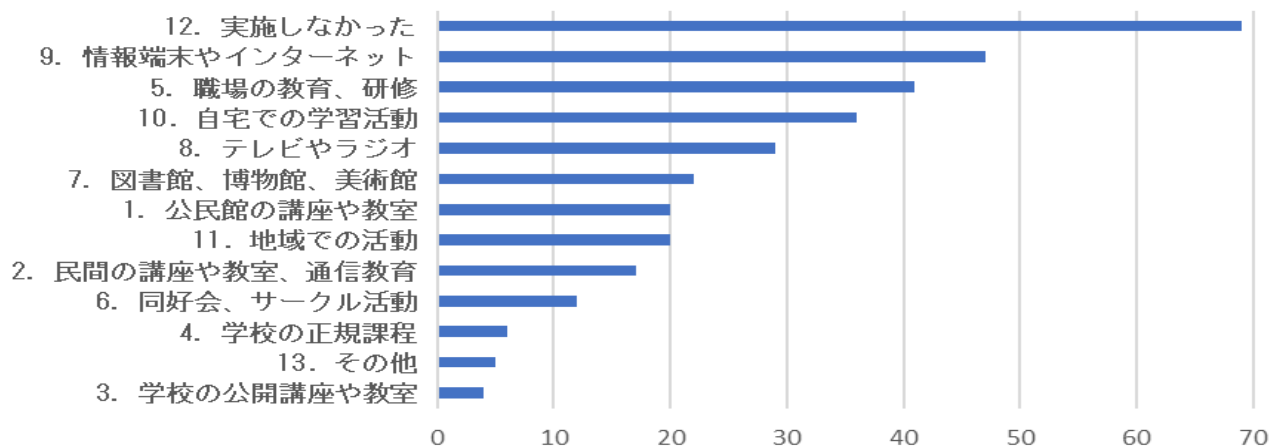
■ 10歳代
■ 20歳代
■ 30歳代
■ 40歳代
■ 50歳代
■ 60歳代
■ 70歳以上
■ 無回答

<調査事項>

1 あなたは、この1年間で生涯学習活動をどのような場所や形態で行いましたか。次の中からあてはまるものをいくつでも選んで番号を○で囲んでください。()内の数字とグラフは人数

1. 公民館や生涯学習センターなどの公的な機関における講座や教室(20)
2. カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室、通信教育(17)
3. 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の公開講座や教室(4)
4. 学校(高等学校、大学、大学院、専門学校など)の正規課程(6)
5. 職場の教育、研修(41)
6. 同好会が自主的に行っている集まり、サークル活動(12)
7. 図書館、博物館、美術館(22)
8. テレビやラジオ(29)
9. 情報端末やインターネット(47)
10. 自宅での学習活動(書籍など)(35)
11. ボランティア活動など地域での活動をとおしての学習(16)
12. 実施しなかった(69)
13. その他(5)(具体的に 小学校、中学校、ハローワーク)

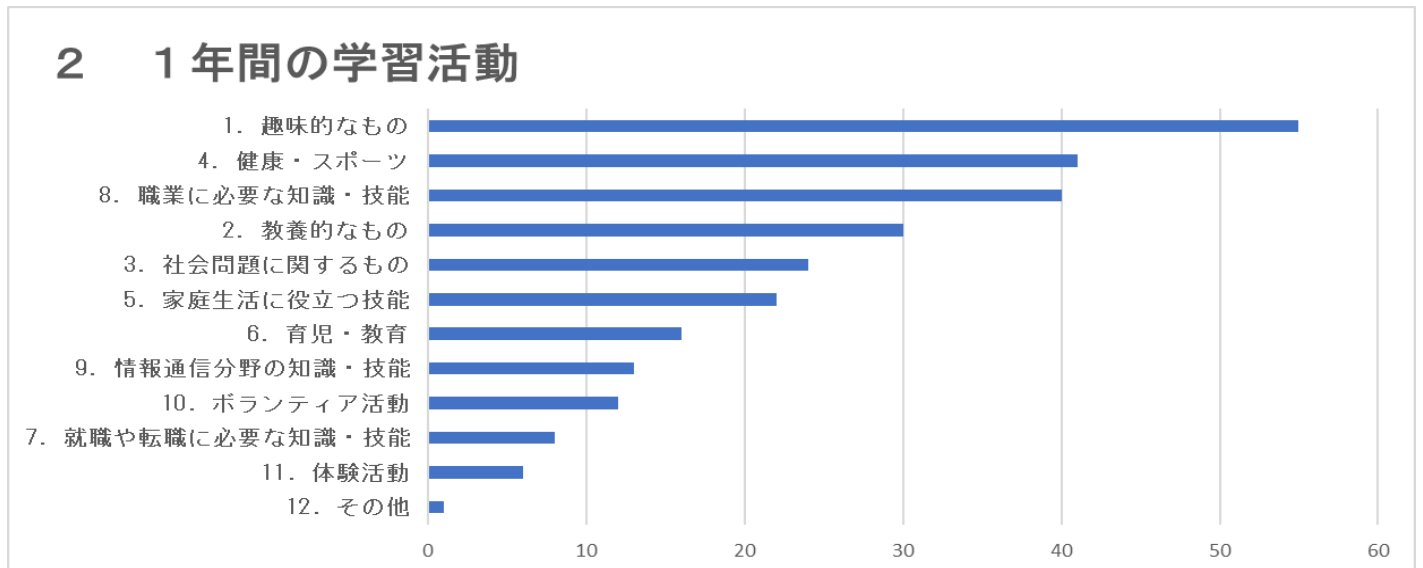
1 場所と形態



<寸評>1年間の生涯学習活動の場所と形態は、全体の約69名(34.5%)の人が「実施しなかった」と回答した。多かった回答は「情報端末やインターネット」(23.5%)「職場の教育、研修」(20.5%)「自宅での学習」(18.0%)であった。年代別にみると、10歳代から70歳以上まで、「実施しなかった」の割合が20.0%、50.0%、25.0%、38.7%、42.1%、26.98%、23.3%であった。場所と形態は、10歳代が学生ばかりのため「学校の正規課程」が多かった。それ以外の年代は、全体と同じ傾向だった。

2 あなたがこの1年くらいの間に行った学習活動について、次の中からあてはまるものをいくつでも選んで番号を○で囲んでください。 ()内の数字とグラフは人数

1. 趣味的なもの(音楽、美術、華道、舞踊、書道、レクリエーション活動など) (50)
2. 教養的なもの(文化、歴史、科学、語学など) (30)
3. 社会問題に関するもの(社会・時事、国際、環境など) (24)
4. 健康・スポーツ(健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など) (41)
5. 家庭生活に役立つ技能(料理、洋裁、和裁、編み物など) (22)
6. 育児・教育(家庭教育、幼児教育、教育問題など) (16)
7. 就職や転職に必要な知識・技能(就職や転職に関係する知識の習得や資格の取得など) (8)
8. 職業において必要な知識・技能(現在の仕事のスキルアップや仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など) (40)
9. 情報通信分野の知識・技能(SNSの利用の仕方など) (13)
10. ボランティア活動のために必要な知識・技能 (12)
11. 自然体験や生活体験などの体験活動 (6)
12. その他 (1) (具体的に)



<寸評>実施している人の1年間の学習活動は、「趣味的なもの」(38.1%)「健康・スポーツ」(31.3%)「職業に必要な知識・技能」(30.5%)の順に多かった。年代別では、30歳代と40歳代が「職業に必要な知識・技能」の割合(47.6%、56.7%)が高かった。

3 あなたは、その学習活動を通じて身につけた知識・知識・技術や経験をどのように生かしていますか。次の

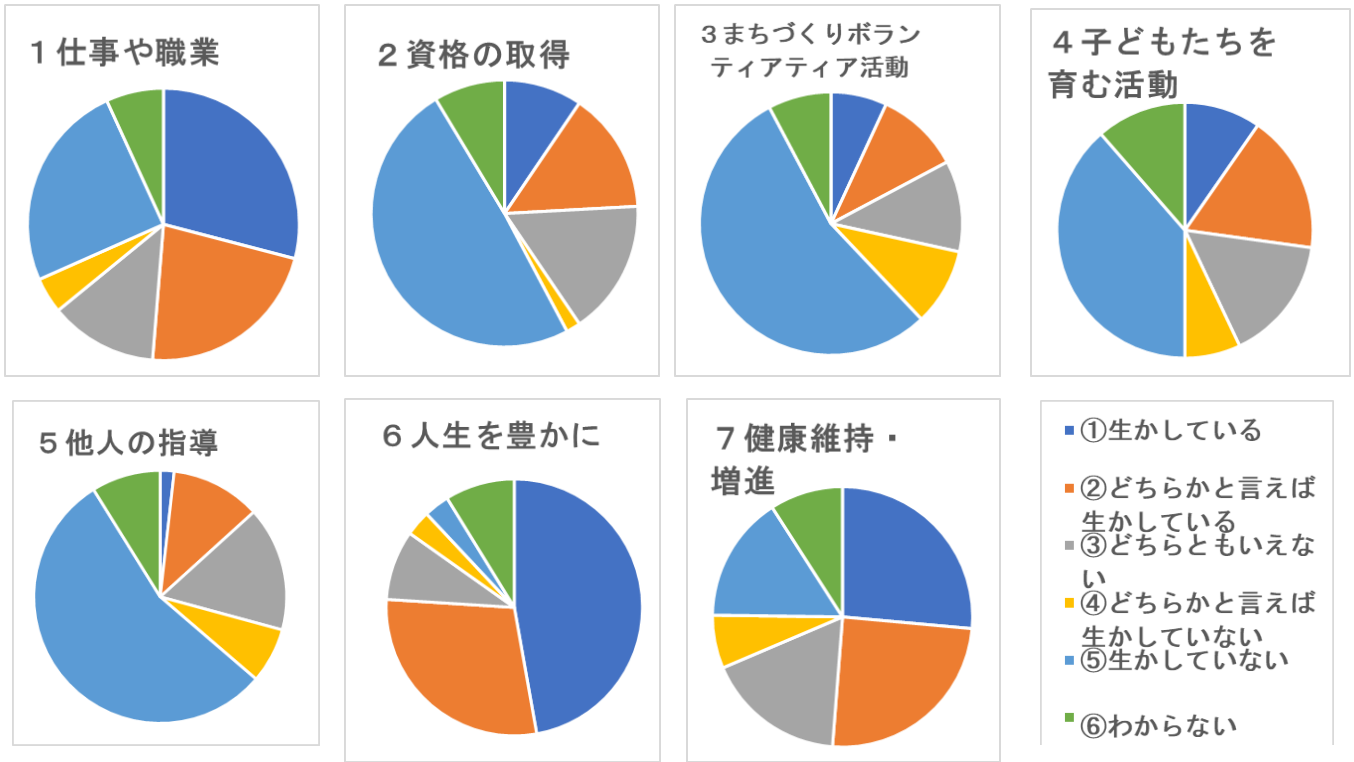
1. ~7. のそれぞれについて、①~⑥から1つだけ選び表に○を記入ください。

①生かしている ②どちらかと言えば生かしている ③どちらともいえない

④どちらかと言えば生かしていない ⑤生かしていない ⑥わからない

下表の数字は%

		①	②	③	④	⑤	⑥
1.	仕事や職業で生かしている	29.1	22.2	12.8	4.3	24.8	6.8
2.	資格の取得に役立っている	9.5	14.7	16.4	1.7	49.1	8.6
3.	まちづくりやボランティア活動などに生かしている	6.9	10.3	11.2	9.5	54.3	7.8
4.	子供たちを育むための活動に生かしている	9.6	17.5	15.8	7.0	38.6	11.4
5.	他の人(子供たちを除く)の学習やスポーツ活動、文化活動などの指導に生かしている	1.8	11.5	15.9	7.1	54.9	8.8
6.	自分の人生をより豊かにしている	47.2	28.8	8.8	3.2	3.2	8.8
7.	自分の健康維持・増進に役立っている	26.9	25.2	17.6	6.7	16.0	9.2



<寸評>身に付けたものをどのように生かしているかの問いで、最も割合が高かったのが、「自分の人生をより豊かに」(74.1%)で、次いで「健康維持・増進」(52.1%)「仕事や職業」(51.3%)だった。

逆に生かしている割合が低かったのが、「他人の指導」(13.3%)、「まちづくり・ボランティア活動」(17.2%)で、「資格の取得」(24.1%)、「子どもたちを育む活動」(27.2%)の順だった。

年代別では、「仕事や職業」は、働く世代が高く、70歳以上は低くなっている。「資格の取得」、「まちづくり・ボランティア活動」、「他人の指導」は、どの年代も割合が低かった。「人生を豊かに」、「健康維持・増進」は、どの年代も割合が高かった。

4 質問1で12.「実施していない」と回答した方のみお答えください。

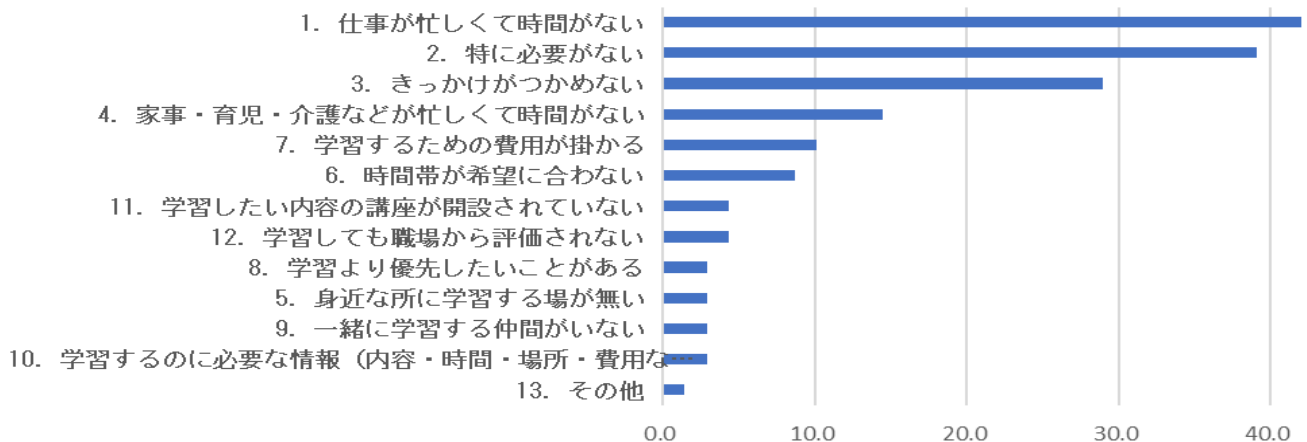
この1年間で「生涯学習」を行わなかった理由は何ですか。次の中からあてはまるものをいくつでも選び番号を○で囲んでください。

()内の数字は69人中の人数

- | | |
|---|----------------------------------|
| 1. 仕事が忙しくて時間がない (27) | 2. 特に必要がない (29) |
| 3. きっかけがつかめない (20) | 4. 家事・育児・介護などが忙しくて時間がない (9) |
| 5. 身近な所に学習する場が無い (2) | 6. 時間帯が希望に合わない (6) |
| 7. 学習するための費用が掛かる (2) | 8. 学習より優先したいことがある (7) |
| 9. 一緒に学習する仲間がいない (2) | |
| 10. 学習するのに必要な情報(内容・時間・場所・費用など)が入手できない (2) | |
| 11. 学習したい内容の講座が開設されていない (2) | |
| 12. 学習しても職場から評価されない (1) | 13. その他 (2) (具体的に: 何のことが分からないため) |

※ 下表は回答者の割合を示す

4 行わなかった理由



<寸評>行わなかった理由のトップは、「仕事が忙しく時間がない」(42.0%)、「特に必要がない」(39.1%)で、「きっかけがつかめない」(29.0%)、「忙しくて時間がない」(14.5%)と続いた。

「きっかけがつかめない」人が約3割もいることから、参加しやすく、興味が湧くような講座等を準備したり、学習情報を提供することが、学習活動に取り組む人を増やすことにつながると考える。

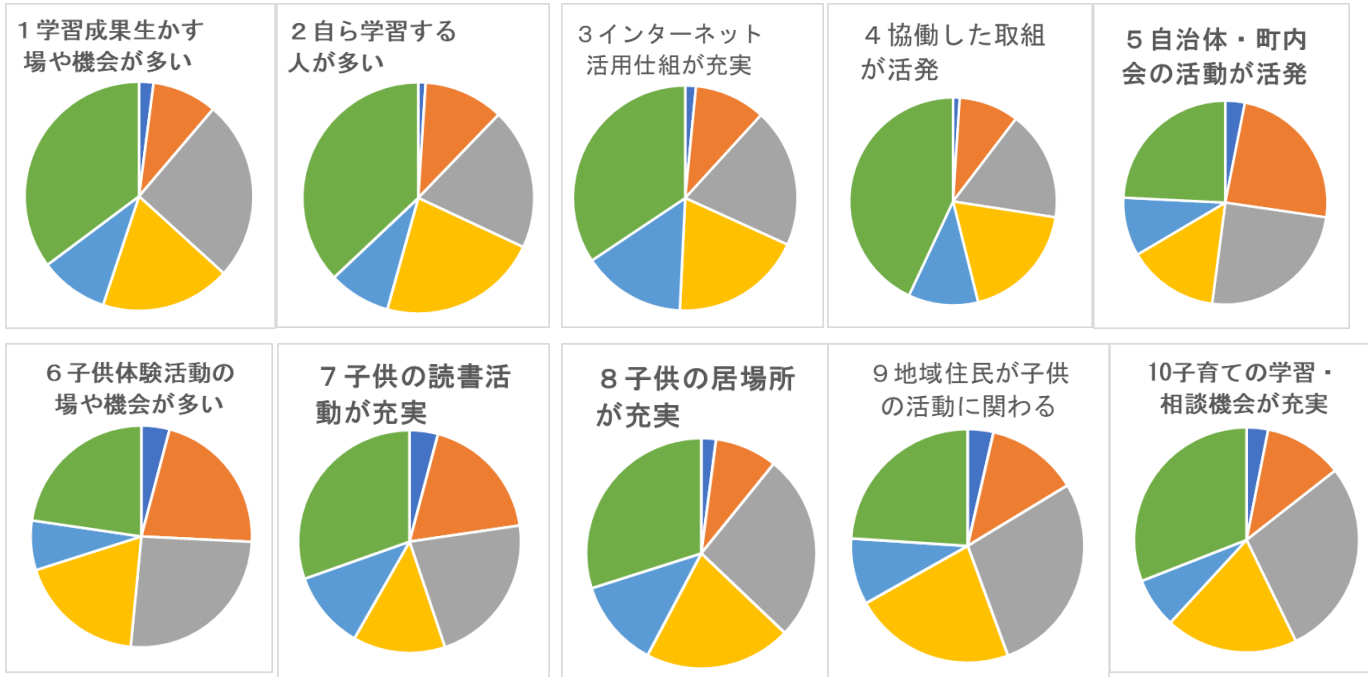
5 あなたは、お住まいの地域の生涯学習の実態について、どのように思いますか。

次の1.～10.のそれぞれについて、①～⑥から1つだけ選んで表に○を記入ください。

- ①とても思う ②どちらかと言えば思う ③どちらともいえない ④どちらかと言えば思わない
⑤まったく思わない ⑥わからない

下表の数字は全回答者中の割合%

		①	②	③	④	⑤	⑥
1.	地域に学習した成果を生かす場や機会が充実している	2.0	9.2	25.5	18.4	9.7	35.2
2.	住民が自ら学習に取り組もうとする人が多い	1.0	11.2	19.8	22.3	8.6	37.1
3.	インターネットを活用した学習やそれを支援する仕組みが充実している	1.5	10.3	20.0	19.0	14.9	34.4
4.	行政機関がNPOやボランティア団体と協働した取組を活発に行っている	1.0	9.3	17.1	18.7	10.9	43.0
5.	自治会・町内会などの活動が活発に行われている	3.1	24.2	24.7	14.4	9.3	24.2
6.	子供たちが多様な体験活動をする場や機会が多い	4.1	21.6	25.8	18.6	7.2	22.7
7.	子供たちの読書活動が充実している	4.1	18.6	22.2	13.4	11.3	30.4
8.	子供たちが異年齢・異世代と交流する場や心を落ち着けられる居場所が充実している	2.1	8.8	26.3	20.6	12.4	29.9
9.	多くの地域住民が子供たちの活動に関わりを持っている	3.6	12.8	28.1	22.4	9.2	24.0
10.	家庭教育や子育てに関する学習・相談の機会が充実している	3.1	11.3	28.4	19.1	7.2	30.9



<寸評>村の生涯学習の実態に対して、「とても思う」の回答が、全項目で少なかった。評価が高かった(①②と回答)のは、「自治会・町内会の活動が活発」(27.3%)「子供体験活動の場や機会が多い」(25.8%)「子供の読書活動が充実」(22.7%)であった。

評価が低かった(④⑤と回答)のが、「インターネット活用仕組が充実」(33.8%)「子供の居場所が充実」(33.5%)「地域住民が子供の活動に関わる」(33.0%)

「自ら学習する人が多い」(31.0%)で、他の項目も④⑤の回答が、全て20%を超えた。

「分からない」の回答が、全項目で20.0%を超え、平均で約29%だった。全体の1/3近くの人を実態について認知していないことになる。村の生涯学習の環境について、十分周知されていないとともに、不十分と感じている村民が多いことが分かる。

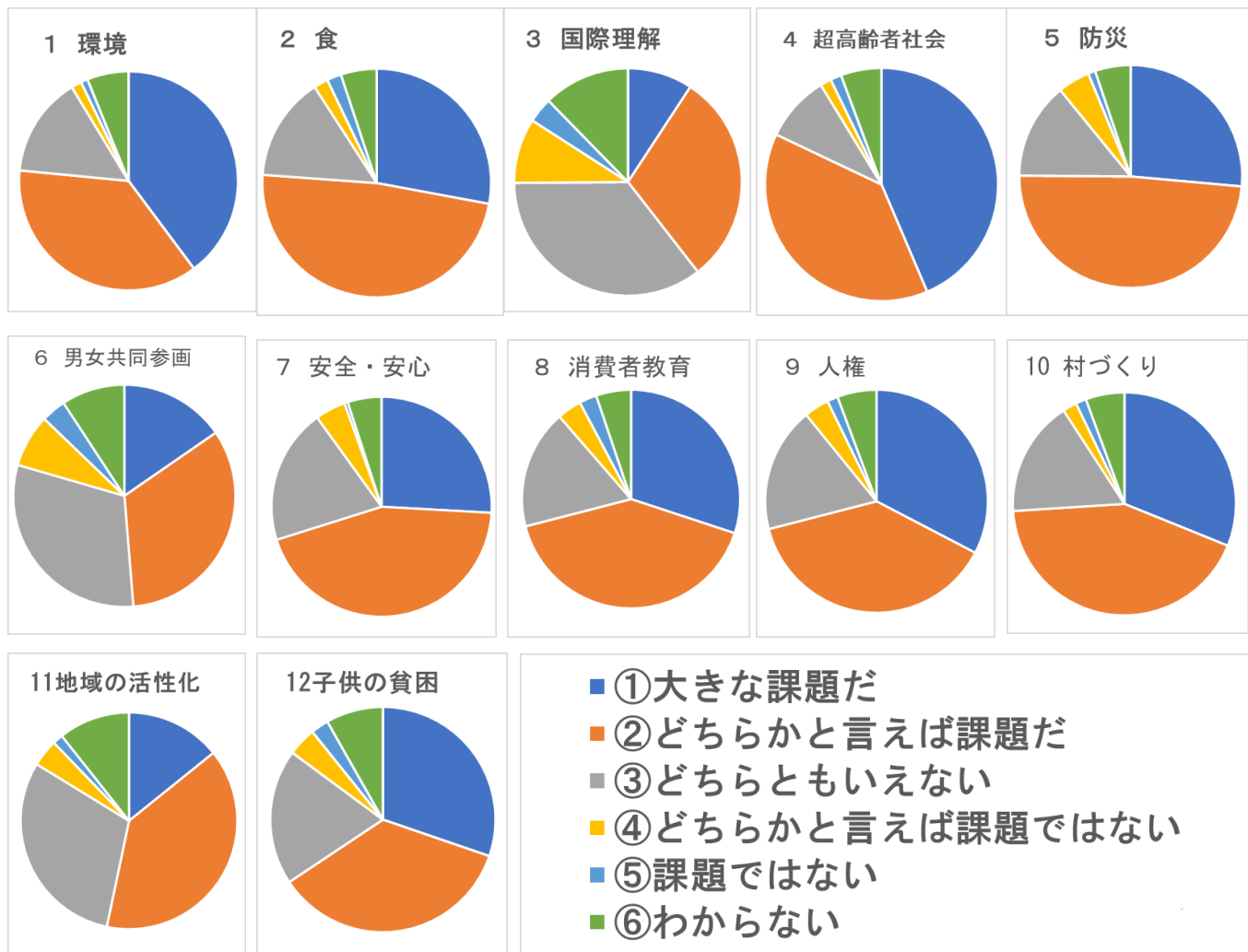
- ①とても思う
- ②どちらかと言えば思う
- ③どちらともいえない
- ④どちらかと言えば思わない
- ⑤まったく思わない
- ⑥わからない

6 あなたは、日常生活の課題について、どのように捉えていますか。次の1.～12.のそれぞれについて、①～⑥から1つだけ選んで表に○を記入ください。

- ①大きな課題だ ②どちらかと言えば課題だ ③どちらともいえない ④どちらかと言えば課題ではない
⑤課題ではない ⑥わからない

下表の数字は全回答者中の割合%

		①	②	③	④	⑤	⑥
1.	地球温暖化や自然環境の保全など、環境に関すること	39.8	36.7	14.8	1.6	1.0	6.1
2.	安全・安心な食材や望ましい食習慣など、食に関すること	27.9	48.2	14.7	2.1	2.0	5.1
3.	異文化の理解や交流等、国際理解に関すること	9.2	30.3	35.4	10.2	3.6	12.3
4.	介護や孤独死、地場産業の担い手不足等、超高齢社会に関すること	43.6	38.5	9.2	1.6	1.5	5.6
5.	災害に関する理解や共助体制など、防災に関すること	26.4	48.7	14.0	4.9	1.0	5.2
6.	女性の人権尊重や社会進出など、男女平等参画に関すること	15.4	33.3	30.8	8.3	3.6	9.2
7.	犯罪や交通事故、疾病など、安全・安心な暮らしに関すること	25.9	44.3	19.9	4.7	0.5	5.0
8.	悪質商法や特殊詐欺など、消費者教育に関すること	30.1	40.9	17.6	3.8	2.6	5.2
9.	児童虐待やプライバシー侵害など、人権に関すること	32.6	38.3	18.1	3.8	1.6	5.7
10.	障がい者への配慮等、だれもが暮らしやすい村づくりに関すること	31.1	42.9	16.8	2.1	1.5	5.6
11.	ボランティアや地域の活性化などに関すること	14.2	39.1	30.5	4.2	1.5	10.7
12.	家庭の経済や生活環境、学習機会の格差など、子どもの貧困に関すること	30.3	35.4	19.5	4.3	2.6	8.2



<寸評> 日常の課題の問いで、課題と捉えている（①②と回答）項目は、「4 超高齢化社会」（82.1%）「1 環境」（76.5%）、「2 食」（76.1%）、「5 防災」（75.1%）、「8 消費者教育」（71.0%）、「9 人権」（71.0%）、「10 村づくり」（71.0%）、「安心・安全」（70.1%）の順で、高い課題意識が伺われた。

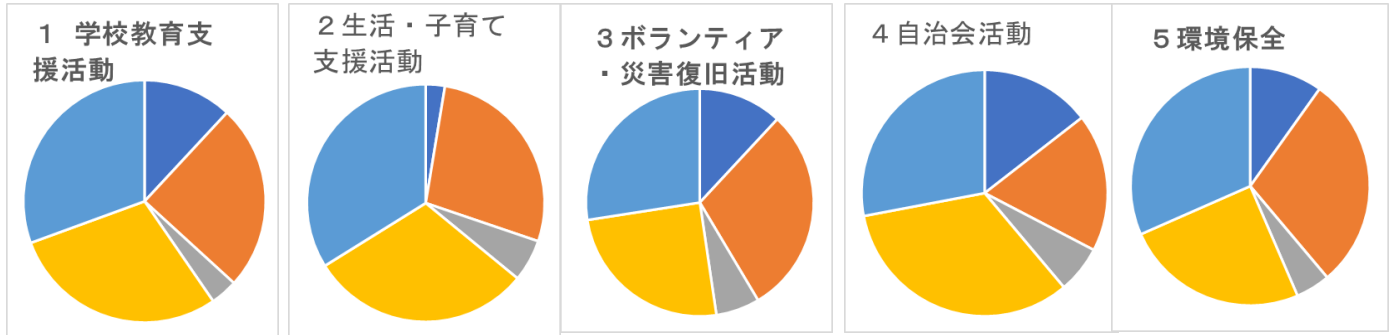
課題意識が低かった（①②と回答）のは、「3 国際理解」（39.5%）、「6 男女共同参画」（48.7%）だった。

7 あなたは、各地域活動やボランティア活動の参加についてどのように考えていますか。次の1.～5.のそれぞれについて、①～⑤から1つだけ選んで表に○を記入ください。

- ①参加したことあり今後も参加したい ②参加したことないが今後は参加したい
 ③参加したことあるが今後は参加したくない ④参加したことなく今後も参加したくない
 ⑤分からない

下表の数字は全回答者中の割合%

		①	②	③	④	⑤
1.	学校教育を支援する活動	11.9	24.9	3.6	29.0	30.6
2.	生活課題を抱える人や子育てなどを支援する活動	2.6	27.6	5.7	30.2	33.9
3.	ボランティア活動や災害復旧などを支援する活動	11.9	29.5	6.2	24.9	27.5
4.	地域活性化などのまちづくりや子ども会指導、自治会活動	14.5	18.1	6.2	33.2	28.0
5.	自然保護やリサイクル運動などの環境保全等に関する活動	9.8	29.0	4.7	24.9	31.6



＜寸評＞活動に参加したい（①②と回答）割合は、3 ボランティア・災害復旧活動」（42.2%）で最も多く、他は 30.2～38.9%で、全体の約 1 / 3 の人が活動に参加したいと回答した。

参加したくない（③④と回答）は、「4 自治会活動」（39.2%）が最も多く、他は 29.4～36.1%で、いずれも高い数値を示した。

参加したことがあり「今後も参加したい」と「今後はしたくない」（①と③の比較）は、4 項目で「参加したい」が上回ったが、「2 生活・子育て支援活動」のみ「参加したくない」が上回った。

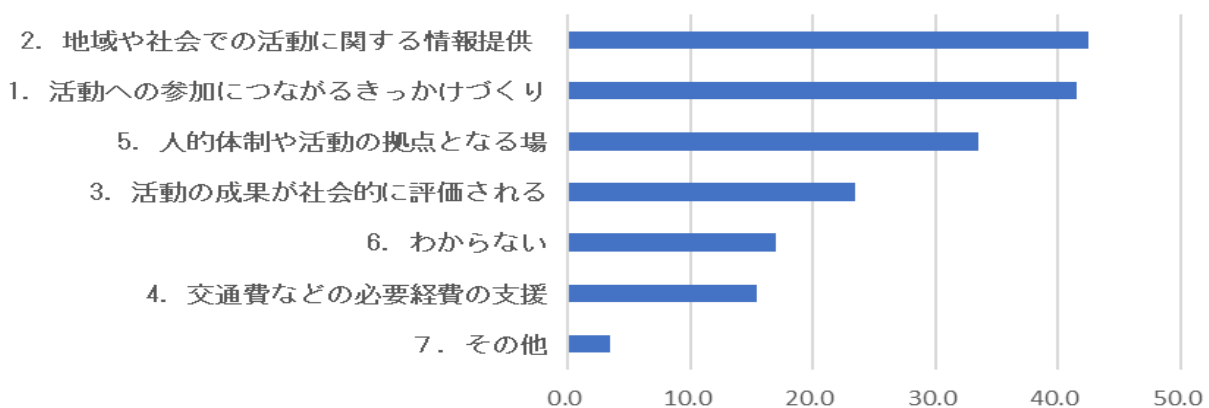
「④参加したことなく今後も参加したくない」は、各項目平均で約 28%と、ボランティア活動に消極的な姿勢が伺われる。

- ①参加したことあり今後も参加したい
- ②参加したことないが今後は参加したい
- ③参加したことあるが今後は参加したくない
- ④参加したことなく今後も参加したくない
- ⑤分からない

8 多くの人が地域活動や社会活動に参加するようになるためには、どのようなことが必要だと思いますか。下の中からいくつでも選んで番号を○で囲んでください。 **数字とグラフは全回答者中の割合%**

1. 地域や社会に関する講習会の開催など、活動への参加につながるきっかけづくり（41.5%）
2. 地域や社会での活動に関する情報提供（42.5%）
3. 活動の成果が社会的に評価されること（23.5%）
4. 交通費などの必要経費の支援（15.5%）
5. コーディネーターなど活動を支える人的体制や活動の拠点となる場が整っていること（33.5%）
6. わからない（17.0%）
7. その他（3.5%）（具体的に ）

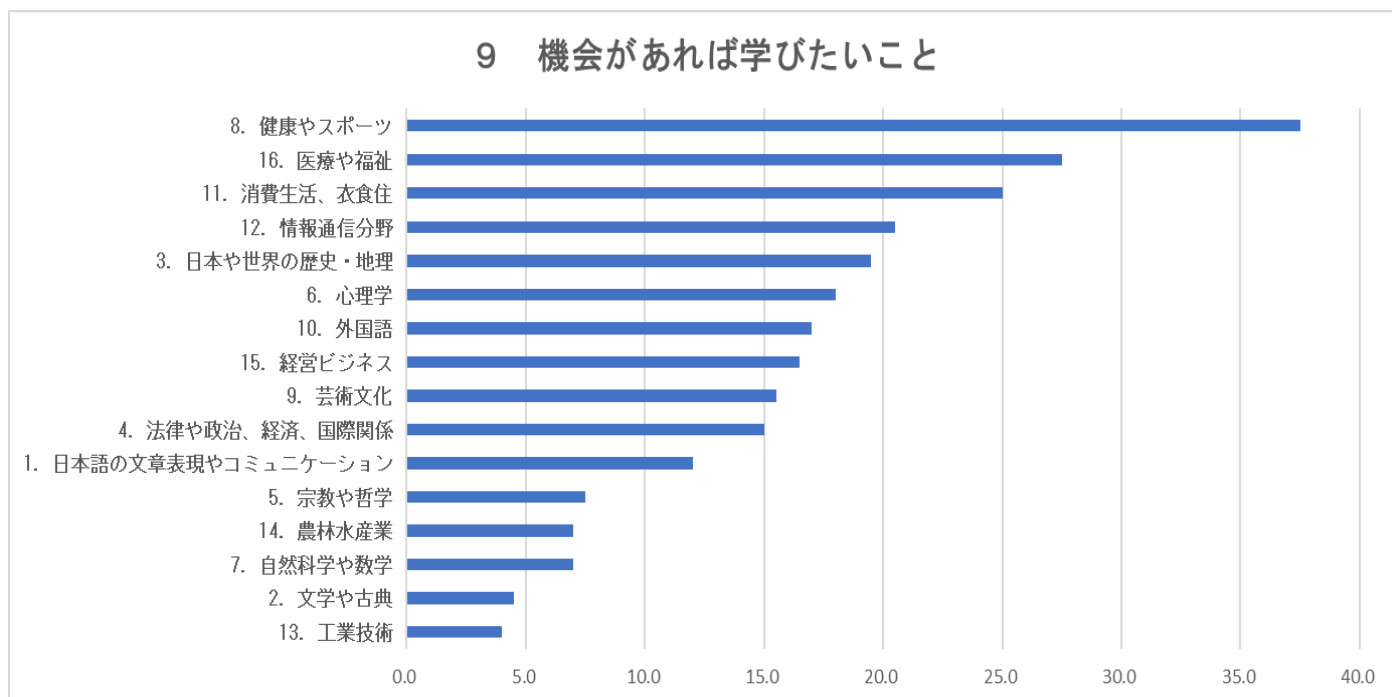
8 地域・社会活動に参加の必要条件



<寸評>地域・社会活動への必要条件是、回答者の4割以上が「1きっかけづくり」と「2情報提供」を上げた。約1/3の人が「5人的体制や活動の拠点となる場」、約1/4の人が「3活動成果の評価」を上げた。このことから、活動への参加を促すためには、関心・興味が湧くような交流の場、活動機会を設け、広く参加を呼び掛けるための広報体制を築くことが求められる。

9 あなたは、機会があれば再び学びたいと思うものがありますか。次の1.～16.からいくつでも選び番号を○で囲ってください。 **数字とグラフは全回答者中の割合%**

- 1. 日本語による実用的な文章表現やコミュニケーションの方法に関すること (12.0%)
- 2. 文学や古典(古文や漢文)の理解に関すること (4.5%)
- 3. 日本や世界の歴史・地理に関すること (19.5%)
- 4. 法律や政治、経済、国際関係に関すること (15.0%)
- 5. 宗教や哲学に関すること (7.5%)
- 6. 心理学に関すること (18.0%)
- 7. 自然科学や数学に関すること (7.0%)
- 8. 健康やスポーツに関すること (37.5%)
- 9. 芸術文化に関すること (15.5%)
- 10. 外国語に関すること (17.0%)
- 11. 消費生活、衣食住などに関すること (25.0%)
- 12. 情報通信分野(SNSの利用の仕方など)に関すること (20.5%)
- 13. 工業技術(情報通信に関するものを除く)に関すること (4.0%)
- 14. 農林水産業に関すること (7.0%)
- 15. 経営ビジネス(起業、財務会計、マーケティングなど)に関すること (16.5%)
- 16. 医療や福祉(子育て、保育、介護など)に関すること (27.5%)



<寸評>機会があれば学びたいことのトップは、「8健康やスポーツ」(37.5%)で、続いて「16医療や福祉」(27.5%)、「11消費生活や衣食住」(25.0%)、「12通信情報分野」(20.5%)、「3日本や世界の歴史・地理」(19.5%)の順に多かった。